

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	LEIF函館		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2026年12月1日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育を提供していること。 近隣の小学校、民間施設での屋外、屋内にてサッカーを中心とした運動療育を行うことができる	サッカーはもちろん、バスケットやバレーボール、卓球、野球等の運動量が多い種目かつ集団行動での協調性の育成、モルック等の指先の力加減が必要となる様々な運動種目も療育内容に含めている。	雨天、冬期時の運動療育会場を確保し、体を動かせる環境をつくっていきながら、事業所内で活動できる内容も含めこれまで取り組んだことのない種目も選定していく。
2	学校休校日を中心に季節にあったイベント、外出イベント、調理イベント等、利用児童が楽しめる企画を実施している。	利用児童が楽しめるイベントを毎月考え、運動以外の体験活動も行いつつ、協力しながら取り組める環境を設定し、児童のできることを増やしている。	新しいイベント、今流行りのものを企画、課題となる点を全体の活動として取り入れていく。 その結果、新たな経験を重ね、成長や課題の解決、協調性をより養っていく。
3	集団活動での学び合いが多く、出来る子が出来ない子へ教え、高学年が低学年へ教える環境を作っている。	サッカーを中心とした運動療育はもちろん、事業所内でのグループ活動で他学年の交流を意識し協調性を養える療育内容にしている。	リーダーシップの発揮、周囲の意見を受け入れる気持ちも成長できるような仕組みづくり、誰とでも一緒に活動できる対応方法を検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	屋外活動時、冬期と急な天候の変化、施設の状況により活動場場所が制限されてしまうこと。	運動療育を行う際、学校、児童館、民間施設をお借りしているため、季節や天候によって使用有無が左右されてしまうこと。	新たな療育会場の確保。新しい事業所の選定。事業所内でも運動時と同様または、違う楽しみや成長を促す取り組みを検討する。
2	運動嫌いの子や運動能力に課題がある子への支援	運動が苦手な子に対して、運動時の支援方法、個別対応ができていないこと。 運動能力に課題がある子に対して、臨機応変にその子に適した内容を全職員がその場で提供できないこと。	個別対応を中心に、気持ちの切り替えができるような声かけ、また難易度が低いものから段階を踏んで挑戦させていき、達成感を与えながら一つずつ挑戦させていく。 また職員研修を実施し、子ども対応の能力を向上させていく。
3	職員の個別対応、保護者対応に偏りがある。	全体活動、個別対応に差があり、運動能力、その時の気持ちや状況、環境に合った対応ができないこと。 子どもの急な変化に対応できないこと。	個別対応の指導から始め、より少ない小集団から複数名の職員でサポートしながら知識、能力の向上に繋げていく。また経験豊富な方からアドバイスを受けられる機会を設け、育成していく。